

生保標準生命表 2018(死亡保険用)

作成過程概要

基礎データ — [[若年齢部分の補整]] — 粗死亡率 — [[死亡率改善の反映¹]] —
補整前死亡率 — [[1,2,3 次補整]] — 生保標準生命表

粗死亡率の決定

- 基礎データ: 生命保険協会がまとめた生命保険会社 29 社の実績。①有診査男女別、②経過年数 30 年以下
- 標準死亡率に求められる死亡率の安定性・安全性の確保及び経験死亡率の選択効果の実態を勘案し、観察年度・截断年数を以下のように設定
 - 観察年度;
 - * 3 観察年度。ただし、特定の年齢で死亡率が大きく上振れしている東日本大震災の影響を除くため、2008,2009,2011 観察年度とした。
 - * 若年齢 (男子 17, 女子 27 以下) の有診査契約は経過契約件数が十分ではなく、データの安定性・信頼性を考慮し、6 観察年度 (2005–2009, 2011) の 6 観察年度の有無診査合計。3 観察年度と 6 観察年度の接続は、「有診査粗死亡率の 95 %信頼区間上限」が「有診査死亡率の 130 %」を上回る年齢。
 - * 高年齢 (81 歳以上)
 - 截断年数; 選択効果の排除を目的とする。死亡率の安定性確保のため、截断後の件数が 50 %以上となるよう、男女別・年齢群団別に 1~10 年截断とした。前回 (2007) は 5 年までとしていたが、実績より経過 10 年までは選択効果が認められるため。

References

アク会. 標準生命表 2018. 公益社団法人 日本アクチュアリー会公式会員向け Web サイト, 2018.

¹2007 では行っていない